

令和4年度 第1回振興審議会 議事録

- ◆日時 令和4年7月14日(木)午後2時00分～午後3時10分
- ◆場所 市役所4階 401・402会議室
- ◆委員 出席15名 欠席3名
- ◆事務局 みらい戦略課長、同補佐、企画調整係長ほか事務局 1 名

〈次第〉

辞令交付(新委員3名) 委員を代表して、白岩南陽市長から山口正雄委員に交付

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告
柴田孝委員が議長となり、議事を進行
1)第2期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略～令和3年度末実績報告について～
- 4 協議
1)第2期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略の名称変更について(案)
- 5 その他
- 6 閉会

《議事録》

3 報告 1)第2期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略～令和3年度末実績報告について～

(山口正雄委員)

自主防犯組織率及び LED 防犯灯設置率の数値が高いことは良いことだが、実際災害が起こった時に機能するのか。これからは、どう機能させるかという方向で KPI を設定するべきではないか。

(事務局)

市民参加型の防災訓練を行っているところだが、山口委員がおっしゃる通り組織の機能といった面で考えていかなければならない。様々なアプローチ方法があるなか、最近各公民館で高齢者の方を中心に防災スマホ教室を開催し災害に備えている。今後とも検討を重ねていきたい。

(船山利美委員)

移住・定住関係で地域おこし協力隊の定住数の目標値(R3～R7累計 5 人)が低いのではないか。

(事務局)

地域おこし協力隊の任期は最長3年で、その後定住確定となるとそんなに多くはないと考えている。(例えば、令和4年度採用令和6年度任期満了の方は、令和7年度から定住確定となる。現在の地域おこし協力隊員数は7名、うち定住数5名を目標に掲げている。)

(小関武智委員)

LED防犯灯設置率に関して、目標値95%、令和3年度83%ということで高い数値にはなっているが、残りの部分が課題。家屋が密集している箇所と比べ、家屋が少ない県道沿いの設置率が低い。地区で要望しているがなかなか着工しない。

(事務局)

設置が完了していない地区については、地区の方や管理者と打ち合わせを重ねて、こういった方法で進めていくか検討する。

(高岡亮一委員)

空き家バンク登録家屋の売買等成約件数に関して、目標値5件、令和3年度8件ということですので既に目標値に達しているが、こんなにも実績が上がった理由はなにか。

(事務局)

令和3年度特別な取り組みはなかった。ただ少しずつ空き家バンクが認知されてきたため、件数が上がったと考える。

(佐藤奈々子委員)

SDGsチャレンジ事業の具体的な事業内容を教えていただきたい。

(事務局)

昨年度は東北芸術工科大学准教授の山縣先生を講師にお迎えし、市内の小学校を対象にSDGsについてのワークショップを開催。また、SDGsの浸透率を把握するために、包括連携協定を締結している明治安田生命と連携して、SDGsの意識調査を実施した。今後も定期的にも実施する予定。今年度はマイクロプラスチックストーリーという外国の映画を見ていただきながら学校での学習を広めていきたい。

(高橋弘委員)

赤湯温泉湯こっこのバリアフリーをどんどん宣伝すると利用率が上がると考える。

ワインに「南陽産」と表記するために、ぶどうの生産に力を入れるべきだと考える。

自主防災組織については、今後中身を充実させていかなければならないと考える。

(高橋善一委員)

地域おこし協力隊の方が農地探しをしている。なんとか手助けをしたい。

ふるさと納税は年々増加している。今年はさくらんぼが不作だったが、注文分は何とか出荷できた。今後も協力したい。

(菅野直彦委員)

KPIの目標値は適正なのか。資料10ページのように他市と比較するとわかりやすい。

稼ぐ地域の面で、新工業団地はどこにつくるのか、いつ着工するのかを明確に提示していただきたい。

赤湯駅の西側にコンビニエンスストアを建設していただくことで、住宅が増えると考えます。

(熊坂好彦委員)

稼ぐ地域を作るという面で、新産業団地の整備や本社企業の移転は、働く場所の提供の面で重要なこと。今般働き方が大きく変わってきている中、置賜地区でワーキングスペースが整備されてきた。コロナの影響もあるが在宅勤務をする企業も増えてきた。KPIにすることができなくても、外部環境の変化はきちんととらえないといけないと考える。

(中村和彦委員)

来年度より学校の部活動が民間に委託されると発表されている。全国的な動きですが、今から“南陽方式”を打ち出して新たな部活動の運用についてみらい戦略課で検討していただきたい。

(菊池清委員)

南陽市文化会館のコンサート状況につきまして、会館ができた当時に比べると開催頻度が少ない。使用料について今後検討していただきたい。

(事務局)

コンサート関係については、コロナの影響で約2年半入場制限を設けて、その間コンサートについてもなかなか誘致できなかった。

使用料については、他の施設を参考にしながら設定したところなので、御理解いただきたい。

(黒澤光高委員)

合計特殊出生率が県内13市で東根市と天童市に次いで3番目ということで、非常に高い数値だが何か要因はあるのか。

(事務局)

明確な要因については不明。子育て支援については力を入れていることなので、こうして結果が数値で現れて嬉しく思う。

(丸森委員)

DMOの取扱いによって宿泊を伴う旅行した人数は令和3年度で54人ということで数値が低い印象。チラシを配るといった泥臭いこともしつつ、何とか売る努力をすればDMOの発展につながると考える。

4 協議 1)第2期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略の名称変更について(案)

国の「デジタル田園都市国家構想基本方針」が令和4年6月7日閣議決定された。まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、デジタル田園都市国家構想総合戦略(仮称)を策定されるため、国に合わせて南陽市も「第2期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を「南陽市デジタル田園都市国家構想総合戦略」に改める。

今回の協議は、今後名称が変更となることへの了解を得るものである。(名称の変更時期は未定)

(高岡委員)

13市すべて名称変更するのか。

(事務局)

国の指針に従って進めるところが多いのではないかと考える。

5 その他

意見なし。

以上。